

第88号

2016年10月

風

発行

群馬県生協連女性協議会
群馬県前橋市大手町3-19-3

「風」はホームページでもご覧いただけます
<http://gunma.kenren-coop.jp/>
Eメール: mail@gunma.kenren-coop.jp

ぐんま男女共同参画センター戸塚所長を迎え 8月17日(水) 運営委員学習会を開催



女性協議会運営委員会では、8月17日(水)にぐんま男女共同参画センター戸塚洋子所長を講師に迎え、群馬県の男女共同参画推進に関する取り組みを学ぶ運営委員学習会を開催しました。学習会には、運営委員・事務局7名が参加しました。

冒頭、戸塚所長から男女共同参画週間に放送しているラジオスポットCMの紹介がありました。右下資料の他に、「会社(社長と専務)編」「母と息子編」「妻と夫(自治会長)編」「男の育休編」を放送しているそうです。

群馬県の女性比率の全国順位は、県公務員の管理職で13位とやや健闘しているものの、地方議会議員、各種審議会委員等で全国都道府県数の半分以下の順位と低迷しています。とりわけ、市町村の審議会等の委員、自治会長の女性参画比率は、全国最下位となっていることが報告されました。

戸塚所長はその後、「群馬県男女共同参画基本計画(第4次)」について説明し、①男女がともに暮らしやすい社会を実現するため「長時間労働等を前提とした労働慣行等の変革と男性にとっての男女共同参画」を計画全体にわたる横断的視点として位置付けていること、②「あらゆる分野における女性の活躍推進」「生涯を通じた安全・安心の確保」「男女共同参画社会の実現に向けた社会システムの整備」の3つの基本方針、③「ものづくり分野」における取組の推進、職種拡大、起業支援等の推進、防災分野に女性の視点を入れる取り組みの推進など新たな課題への対応を特徴とした分野別諸施策の紹介がありました。

群馬県の女性参画比率と全国順位

項目	女性割合	昨年の全国順位	今年の全国順位	昨年比較
1 都道府県議会議員	6.4%	18位	31位	↓
2 市区議会議員	11.2%	26位	23位	↑
3 町村議会議員	6.9%	35位	33位	↑
4 都道府県の地方公務員試験からの採用者	24.4%	47位	35位	↑
5 都道府県の地方公務員管理職	8.0%	13位	13位	→
6 都道府県の審議会等委員	30.2%	34位	27位	↑
7 市区町村の審議会等委員	20.0%	47位	47位	→
8 管理的職業従事者	11.8%	26位	34位	↓
9 自治会長	0.4%	47位	47位	→
10 都道府県防災会議の委員	10.6%	32位	25位	↑

【全国女性の参画マップ】(H27.12月 内閣府男女共同参画局 作成)のデータを加工

群馬県(ぐんま男女共同参画センター)では、毎年、男女共同参画週間(6/23~6/29)にあわせて、ラジオでスポットCMを放送しています。

例1「父と娘」編

娘:お父さん、私、将来自動車整備士になろうかな?

父:へえ~。いいじゃないか!

お前、小さい時から機械いじりが好きだったからな!

娘:よかった!

アナ:男女の性別に関係なく、その人の個性や能力を認めて個人の考えや生き方を尊重しましょう!

例2「先輩・後輩」編

後輩:先輩、家で毎日、食器洗いしてるって本当ですか!?

先輩:うちは共働だからな!

風呂の掃除に布団干し、家計の管理も俺の担当だよ!

後輩:へえ~。僕も見習わなきゃ!

アナ:男女の性別にとらわれず、役割分担は適材適所で!

「群馬県ぐんま男女共同参画センター」(からのお知らせ)でした。

県内20の団体から32名が参加 8月20日(土) ぐんま男女共同参画センター登録団体交流会

8月20日(土)ぐんま男女共同参画センターにおいて同センター登録団体交流会が開催され、県連女性協議会からは松本会長と藤原の2名が出席しました。

食改推、商工会、栄養士、薬剤師、議員など20の団体の32名が5つのグループに分かれ、3回の意見交換を行いました。1回が30分と短く、3回とも自己紹介と所属団体の概要を話してからの意見交換でしたので、深い議論はできませんでしたが、他団体の女性の活躍だけでなく「より豊かで平和な地球を創るために男女、文化、宗教のバリアフリー活動」「国際交流事業参加者の視野と感覚で、広く社会に貢献する」など高邁な理想を掲げて活躍することに驚き、女性協もまたより深く、男女共同参画の学習や交流に取り組み、広く推進していくことを思った貴重な交流会でした。

副会長 藤原京子 (利根保健生協)

2016年度第1回中央地連男女共同参画懇談会へ運営委員4名が参加しました ～非正規職員シングル女性の実態を知る～ 8月31日(水)



男女共同参画センター横浜
事業課課長 植野ルナさん

8月31日(水)主婦会館プラザエフ(東京)において、日本生協連中央地連主催の2016年度第1回男女共同参画懇談会が開かれ、「多様な生きかたと多様な働きかたを考える」をテーマに、54名の方々と交流を行いました。県連女性協から松本会長、藤原副会長、吉田運営委員の3名が、コープぐんまから女屋が参加し、県連女性協議会運営委員の4名が参加しました。

今回、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協議会(男女共同センター横浜)植野ルナ事業課課長から、非正規で働くシングル女性の貧困についての調査結果報告がありました。

現状では、いかに非正規シングル女性を支える仕組みが整っていないか、という事も知りました。今は、多様な生きかた、多様な働きかたを選ぶ権利もあり、それを認め、しかし困っているかたには、手をさしのべる事も大切であるという事も学びました。

ひと昔前のように20代で結婚し子どもがいて夫の給与で生活する妻は、こづかい程度に働く――明らかにこのようなモデルケースが当てはまる時代は変化しています。介護等で、非正規にならざるを得ない働きかたをしている人達も増加し、そのことで将来貧困になり、横のつながりさえもなくなっていく不安をかかえ生きていくのは、大変つらい事だと思います。

どの団体におきましても、これからは地域のつながりの大切さを軸に、地域間の橋渡しを行い、将来を見据え一人ひとり何が出来るのか、考えていただければと感じました。



中央地連 男女共同参画懇談会のようす

運営委員 女屋美由紀 (コープぐんま)

2016年度視察研修会を実施しました 10月7日(金) ～山古志地区に復興と女性の活躍を訪ねて～



10月7日(金)、新潟県中越地震から12年経った旧山古志村(現長岡市)を視察研修しました。42名の参加でした。

「2004年10月23日午後5時56分、

震度6強の地震発生。丁度夕食時でした。24日に全村民が長岡市に避難した。棚田も、紅葉が始まっていた山も全く様変わりしてしまった。全国からの暖かい復興支援に応えるのは、村に戻り元気に暮らすこと。4人の女性で食堂をやろうと始めたのが「多菜田」です。辛い体験だったが繋がりやすさを感じられた。母ちゃんが元気だと父ちゃんも元気になる。」やまこし復興交流会おらたるで、元気に明るく語ってくれたのは、農家レストラン「多菜田」の代表、五十嵐なつ子さんでした。



農家レストラン「多菜田」代表語り部の五十嵐なつ子さん

昼食は多菜田弁当の予定でしたが、手違いで食べられず残念でした。おぢや震災ミュージアムそなえ館で、震災被害や避難生活の様子の説明を受け、震度7の揺れを疑似体験。イザという時の「そなえ」を学びました。



やまこし復興交流会おらたるの見学の様子



おぢや震災ミュージアムそなえ館の見学の様子

私は、中越地震の翌年、医療生協の支部旅行で復旧途中の山古志の旅館に泊まり、震災の現地を見て、長岡医療生協の人と交流をしました。今回、復興した棚田、元気な女性の話を聞き嬉しくなりました。

運営委員 北毛保健生協 猪俣友子

おわび:視察研修会で事前にご案内していた「山古志弁当」の手配ができておらず、参加者のみなさまには大変ご迷惑をおかけしました。視察研修会主催事務局と現地との事前確認はしっかりとれていたにもかかわらず、現地と弁当依頼先との間で受発注確認にミスがありまして、結果として楽しみにしていたみなさまにお届けできなかったこと、深くおわび申し上げます。

山古志地区をたずねて

小池よし子さん（利根保健生協）

2004年10月の新潟県中越地震から12年、復興した山古志地区を視察との企画、ぜひ参加したいと思い申し込みました。12年前のあの日、すごい揺れがいきなり来て、思わず孫を抱きかかえたあの地震。それまで味わった事のない揺れでした。そしてテレビで放映される惨状は、目を覆うものがありました。

あの被害からどのように復興したのか、復興交流館や震災ミュージアムでの見学はたいへん勉強になりました。又、震災の際に全国からの支援の多さに感謝をし、どうにか恩返しをと立ち上がった女性達が始めた農家レストラン。今では地元で根ざし一人暮らしの人へのお弁当やおかずだけの提供をしているという。地震の時皆で助け合って炊き出しをやったのがつらい中にも楽しさがあり、その後の地域の人達の絆を深める事につながったという五十嵐なつ子さんのお話には、災害の少ない群馬に住む私達に、そなえをしておく必要ありとの警鐘にも聞こえました。

又地域で何かあった時、近所の人達との交流があるかないかという事が一番大事だとも話されました。

今希薄になっている近所つき合いというものは、女性が心がける事だとつくづく思いました。たいへん為になる研修会でした。

新潟県山古志地区を訪ねて

藤井洋子さん（はるな生協）

復興交流館「おらたる（方言で私達の場）」で語り部の五十嵐なつ子さんのお話を聞く。標高3百メートル、積雪3~4メートル、何事もなく平和に暮らしを営んでいた山古志に2004年10月23日午後5時56分、突如として震度7の直下型地震が発生し、山は至る所で崩壊し、人家までも水没させ大変な被害を被ったと言う。全村避難を余儀なくされた人々はもうだめだという気持ちがあったという。でも間もなく全国の方々から支援物資が届けられ、避難生活を送りながら「帰ろう山古志」のスローガンのもと地域一丸となって復興の道を歩み続けたという。

ここは自給自足の村で、米、野菜、大豆、山菜が取れる場所でもあり、これらを活かして全国の人達に恩返しをしなればという思いで農家レストラン「多菜田」という名前で開店に至ったという。同じ建物の中で、復興の様子、避難生活の様子等を見学。

続いておぢや震災ミュージアムそなえ館を見学。ここでは地震シュミレーターで当時の揺れを疑似体験し、崩落した後の家の中の様子や、避難された人々の様子を見学し、いつでも水・食料は用意しておくようにとの事でした。自然災害はいつ起こるかわからないので、大変良い勉強をさせていただいた一日でした。ありがとうございました。

共同参画の取組み紹介

生活クラブ生協群馬

各生協から寄せていただいた原稿をそのまま掲載しています。

女性が切り開き、女性の力で運営されてきた生協

群馬に生活クラブが根を下ろした20数年前、中心を担ったのは女性でした。

当時、来協者が来ると、女性ばかりの事務所を見渡して「男性はいないのか」「代表はどこに？」と言われ、大いに憤慨したそうです。この様なジェンダーは、今でも社会に巣食っているのではないのでしょうか？生活クラブ群馬はまさに女性が切り開き、今日まで女性の力で運営されて来たと言えます。

生協の利用者の多くは女性であり、それは自然な流れであると言えましょうが、全国の生活クラブを束ねる連合会でもまだまだ組織の共同参画は道半ばです。それは連合総会でも組合員から指摘されました。

社会の共同参画は、まず己の組織からです。

協同と助け合いの仕組みを作り、持続可能な社会に転換していくためには、女性の力は不可欠です。

生活クラブ群馬は、先端モデルとして、今後も進んで行きたいです。